

東日本大震災の原発事故に伴う風評被害に直面する福島県の商店街を支援するイベントが青森や石川、千葉などで開かれている。「一店逸品運動」と呼ばれる街の活性化に取り組む各地の商店主のネットワークによる共助の企画だ。関係者は「運動の裾野を広げ、相互交流を深めるきっかけにしたい」と話す。

一店逸品で相互交流

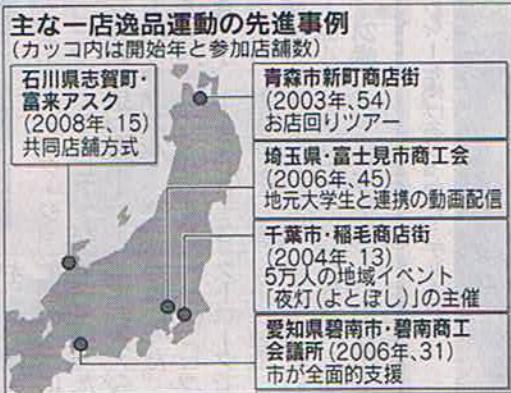
6月17~19日の週末。

JR青森駅前の「さくら
野百貨店」の1階特設会
場で開催されたフェアは
多くの青森市民でにぎわ
った。「応援しよう! 東
北復興!」と銘打った会
場の主役は二本松と郡
山、いわきの福島県内3
市の商店街のご当地商
品。「油揚味噌漬」「ど
うふどーなつ」「茶飴」
といった名前が各商店主
のこだわりをPRする。

原発事故に伴う風評被
害は深刻だ。「観光客ば
かりか買物に訪れる地
元の人気が激減した」(二
本松商工会議所)。郡山
市ではいくつかの店が廃
業に追い込まれた。イベ
ントを主催した青森市新
町商店街振興組合の伊香
佳子さんは「一店逸品運動
の仲間内として何とか
したかった」と話す。

同様のイベントは、4
年前の能登沖地震を知る
石川県志賀町の共同店舗

商店主の輪、復興を支援



逸品に「開発型」と「発掘型」

太田さんによると、
品には「開発型」と「發
掘型」の2種類ある。
前者の具体例が、地元
の伝統工芸のシカのなめ
し革を素材にアッカバ
ーを作製した甲府市の中
店。後者の例として、イ
ンターネットで見つけた
竹織維の市販タオルを仕
入れ、「敏感肌の人にお
勧め」のうたい文句で看
板商品に育てた新潟県十

独自の品ぞろえで誘客

を手始めに千葉県松戸市
や千葉市、山形県最上町
の商店街で開催。松江市
でも話が進む。特定非営
利活動法人(NPO法人)

「一店逸品運動協会」(東
京)に加盟する商店主の

ネットワークが共助の輪
をぐぐく。福島の商店

店主は50余り。伊香さんら
が自らが逸品を案内す
る逸品カタログは、後発

店逸品運動は、各店が独
自の品ぞろえや新商品に
手本になっている。

今回のイベントでは、
いわきと郡山市のメンバ
ーも伊香さんらと一緒に

来場者をも
てなした。

「よその商
店街との交



原発の風評被害に悩む福島の商店街を支援するイベント(青森市)

「店のやる気」をよりど
こうとする呉服町の成功
例は全国各地の2代、3
代目の若手商店主の心

をつかんだ。

新町商店街は2003
年のスタート以来、試行
錯誤しながらも先頭集団
を走り続ける。今や参加
店は50余り。伊香さんら
商店主らの熱く、息の長い被

する「お店回りツアーカー」
や、店主のイラストや写
真を載せた遊び心あふれ

沼市にも向かわれる。
商店主らの熱く、息の長い被

するわけにいかない」。

なった」。逸品つながり
の共助は二本松市にも元
企業診断士、太田巳津彦
さんのお力を添えて得て7月
18日から実施する。商店
主の熱く、息の長い被

アをいつまでも先延ばし

農家や保険業も参加

日町市の洋品店を挙げ
る。「やる気どこだわり
がディスプレーや接客の
改善につながり、素通り
していった地元の人を振り
向かせる」(太田さん)
改善はない。補助金目的の
イベントで足並みを乱
わけだ。安易な発想は通
じ、頓挫した商店街をい
くつも見てきた。

2年目を迎えた神奈川
県平塚市の運動には隣の
店を回る。「買い物客の
目線を新たな逸品に生か
したい」と話す。